

教科目名 現代文 (Modern Japanese)

学科名・学年 : 全学科 3 年

単位数など : 必修 2 単位 (前期 1 コマ, 後期 1 コマ, 授業時間 46.5 時間)

担当教員 : 山田繁伸

授業の概要			
現代文の学習として、小説・評論の二分野を中心に展開する。前期に小説、後期に評論を読む。小説を読むことによって、精神の成長、情操の育成を目指す。評論を読むことによって、論理的な思考力を向上させ、現代社会の抱えるさまざまな問題に真摯に向き合う態度を養う。全般的な日本語力を高めながら、読む力・考える力を身につける。			
達成目標と評価方法			大分高専目標 (C1)
(1) 作中の登場人物の心情を正確に把握し、自らの考え方・生き方を豊かにする。(定期試験と課題) (2) 優れた表現を味わい、自らの言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。(定期試験と課題) (3) 文章に応じた関連資料を駆使し、文章を深く読み解く力を身につける。(定期試験と課題) (4) 論理の展開や要旨をとらえ、それらを参考にし、自分の考えを創造し表現する力を身につける。(定期試験と課題)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1 2 3 4 5 6 7	「坊ちゃん」夏目漱石 「最後の一句」森鷗外 「鼻」芥川龍之介 「清兵衛と瓢箪」志賀直哉 「よだかの星」宮沢賢治 「山椒魚」井伏鱒二 「セメント樽の中の手紙」葉山嘉樹	○作中の人物の喜びや悲しみなどの心情をリアルにとらえ、優れた描写を味わうことを通して、ものの見方や感じ方を広げる。 ○作品の成り立ちを含めた立体的な読みを構築する。	【理解の度合い】
8	前期中間試験		【試験の点数】 点
9 10 11 12 13 14	前期中間試験の解答と解説 「路傍の石」山本有三 「黄金風景」太宰治 「名人伝」中島敦 「潮騒」三島由紀夫 「赤い繭」安部公房 「おきみやげ」幸田文	○小説の文体の特色を理解し、文学史的な知識も身につける。 ○表現上の特色に留意し、情景や心情をとらえることを学び、人生や自然について深く考える。 ○近代という時代とその中に生きる人間の自我獲得の有り様を読み取る。	【理解の度合い】
15	前期期末試験		【試験の点数】 点
	前期期末試験の解答と解説		
16 17 18 19 20 21 22	「ものごとを～」黒川伊保子 「情報のメタ化」外山滋比古 「日本語がなくなったら」山口仲美 「ネイティブ・スピーカー」鈴木孝夫 「生物多様性と～」本川達雄 「日本の精神」内山節 「詩のかたち」荒川洋治	○人間・社会・自然について様々な観点があることを読み取り、自ら深く考える。 ○論理的な展開を把握し、そこにこめられた作者の見方や考え方を学び、社会や人間についての考えを深める。	【理解の度合い】
23	後期中間試験		【試験の点数】 点
24 25 26 27 28 29	後期中間試験の解答と解説 「そっくり人形」安部公房 「白の発見」原研哉 「やつしの美学」磯崎新 「情けは人の～」今枝由郎 「ことばの多重化～」川田順造 「二つの言葉」徳永進	○論理的な展開を扱い、具体例からどのような事実が明らかになっているか、その過程を正確に読み取る。 ○現代の感覚や考え方をとらえなおす作者の発想を理解する。 ○読むことを契機に自らの意見を持ち、現代に通じる様々な問題について考える。	【理解の度合い】
30	後期期末試験		【試験の点数】 点
	後期期末試験の解答と解説		
履修上の注意		プリント等の課題は、指示に従い提出すること。	【総合達成度】
教科書		中島国彦、「新読む力・考える力を高める 現代文学名作選」明治書院 佐野摩美他編著、「現代を読む 評論文 20 選 ステップアップ」明治書院	
参考図書		「新総合 図説国語」東京書籍	
自学上の注意		授業で配布した資料は整理しファイルにしておくこと。	
関連科目		国語総合、地域日本文学、日本語表現法	
総合評価		達成目標の (1) ～ (4) について、4 回の定期試験と課題で評価する。 総合評価＝0.8×(4 回の定期試験の平均点)＋0.2(課題点) 総合評価が 60 点以上を合格とする。再試験は、総合評価が 60 点に満たない者に対して実施する。	【総合評価】 点